

平成30年度 高鍋町立高鍋東小学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）4段階評価 【 A・・・よい B・・・概ねよい C・・・あまりよくない D・・・わるい 】

教育目標	高い志をもち、自らを律して、力強く生きる児童を育成する。		
目指す学校像 目指す児童像 目指す教職員像	○ 知性を磨く学校（力いっぱい） ○ 自ら学び 深く考える子ども（かしこく） ○ 自ら学び、子どもと共に高まる教職員	○ 明るく楽しい学校（笑顔いっぱい） ○ 礼儀正しく 思いやりのある子ども（やさしく） ○ 創意工夫して指導を充実する教職員	○ 活気がある学校（元気いっぱい） ○ ねばり強く 元気な子ども（たくましく） ○ 積極的にコミュニケーションを図り、協働する教職員
本年度の重点（教育的課題）	1 学力の向上＝教師の授業力アップ 2 心の教育の充実 明倫四徳「仁・義・礼・智」の意識化と実践 3 生命尊重と健康管理能力の向上 4 全職員で協働しながら取り組む特別支援教育		

評価項目	方 策 ・ 手 立 て	評 価 指 標	自 己 評 価		学 校 運 営 協 議 会 委 員 評 価			
			指標別	総合	結果の考察・分析	改善策等	コメント	評価
高鍋町重点指導事項	【知】 授業改善 家庭学習習慣の定着	○ 授業力向上を目指した研究授業や研修を通して授業改善に努める。 ○ 家庭と連携し、各学年に応じた家庭学習を習慣化させる。	○ 「わかる授業」をめざした教師の指導力の向上を図るため、年一人1回以上の研究授業を実施する。 ○ 発達段階に応じた家庭学習の習慣を確立する。（※ 1年30分～6年80分）	A B	B	○ 重点支援校として、年間3回の研究授業を実践することができた。 △ 家庭学習については定着については、保護者の88%、児童の91%が肯定的な評価をしているが、不十分な児童も見られる。 △ あいさつについては個人差が大きい。また、下校時や学校を離れたところでのあいさつには課題が残る。 △ 新明倫の教えの唱和は週1回各学級で取り組んでいるが、定着までには至っていない。 ○ 早寝・早起き・朝ご飯については、保護者・児童ともに90%以上ができています。 ○ 授業やクラブ活動、読み聞かせ等、年に百回以上、地域の方を講師に迎えた活動に取り組んでおり、保護者・児童ともに90%以上が肯定的な評価をしている。 ○ 幼・保・中連携は進んでおり、高校については、6年生が見学を行った。	家庭学習 ・各学年の実態に応じた学習課題 ・保護者への啓発 生活習慣定着 ・あいさつ、礼法、整理整頓を重点的・継続的に指導 早寝・早起き・朝ご飯 ・学校保健委員会や通信による家庭への啓発 幼保小中高連携 ・合同研修会や合同行事の検討 ・情報の共有化 ・子どもの地域貢献	・重点支援校の指定を受け、授業研究等も積極的に行われており、指導力向上の面で努力していることが分かる。 ・家庭学習ができる家庭環境作りについて協力を求めている欲しい。 ・いろいろな教育活動の場面で、地域の方々と一緒に結びついていることは、地域の子どもは地域で育てるといふねらいに即している。 ・今後の課題として、あいさつの実践化、新明倫の教えの実生活化が更に進められるとよい。
	【徳】 基本的生活習慣の定着 新明倫の教えの推奨	○ 「学校教育活動全般を通して率先した「あいさつ」「返事」「靴並べ」「整理整頓」「大きな声で校歌を歌う」ことを体得させる。 ○ 「新明倫の教え」を機会あるごとに唱和すると共に集会等において関連する講話等を行う。	○ 日常生活の土台となる「あいさつ」「返事」「靴並べ」「整理整頓」「大きな声で校歌を歌う」の習慣化を図る。 ○ 学校・家庭・地域において「新明倫の教え」を推進し、80%以上の児童生徒が暗誦できる。 ○ 早寝・早起き・朝ご飯の実践者（児童生徒・保護者）数を90%以上にする。	B B				
	【体】 生活のリズムの確立	○ 早寝・早起き・朝ご飯について、学校だよりや学級通信等で啓発する。	○ 早寝・早起き・朝ご飯の実践者（児童生徒・保護者）数を90%以上にする。	A				
	【信頼される学校づくり】 学校運営協議会の充実	○ 学校運営協議会のリーダーシップ、実務者会議の機動性の発揮、地域コーディネーターと連携した取組を行う。	○ 学校を地域や社会に開き、「地域の力」を学校経営に生かし、70%以上の児童生徒・保護者が十分実感できている。	A				
	幼保・小中高連携の推進	○ 学力向上や防災訓練、各種行事等における幼保・小・中・高等学校との更なる連携を図る。	○ 幼保・小・中・高との連携の在り方を模索し、連携した行事等を5回以上とする。	A				
知 育	学力の向上 教師の授業力アップ	○ 児童の学力向上＝教師の授業力向上 ○ 家庭学習や読書活動の推進と充実 ○ 特別支援教育の充実	・「東小授業スタンダード」の実践 ・算数web学習評価システムの活用（95%以上） ・個に応じた指導や習熟度別少人数指導で、全国学力、みやさき学力、CRT結果が県平均を上回る。	A A A	A	○ 高鍋東小授業スタンダードの実践については職員の97%が肯定的に評価しており定着している。 ○ web学習には計画的に取り組んだ。 ○ 加配教員と担任が連携して習熟度別授業やTTによる指導に取り組んだ。 ○ チャイム黙想が定着した。 ○ 家読は年2回の実施であったが、保護者も協力的で本の貸出冊数が年間で約6,000冊増えた。 ○ 特別支援体制が充実し、主任やコーディネーターが積極的に学級担任を支援した。 ○ 職員で共通理解をし、全学級で取り組んだ。 ○ るびなす支援学校等と連携できた。	個人差対応 ・学年で習熟度別指導や課題別指導 ・担任の教科交換授業 立腰指導 ・校内放送や全校集会等による意識化 家読 ・今後は年2回の実施とし、重点的に指導 特別支援教育 ・ユニバーサルデザインに関わる研修	・学校全体の共通実践として授業スタンダードを積極的に取り入れていることが、学力向上につながっていると考える。 ・チャイム黙想は集中力を高めたり気持ちを切り替える意味で、今後も継続して欲しい。 ・特別支援教育の充実が図られている。更に専門的な研修を行っていくとよいと思う。
			・学びの構え（チャイム黙想、姿勢、返事、聴く、発表）を身に付けさせるとともに、家庭学習の習慣化と内容の充実を図る。 ・家読（親子で読書）を年3回実施 ・児童の困り感に寄り添った特別支援体制構築、校内研修の実施（外部機関との連携） ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善 ・保護者の支援と関係機関との連携推進	A B A				
			・児童の自己実現への支援～生徒指導の3機能発揮と「あのねカード」や相談活動を毎月実施 ・学級活動、全校、学年集会活動、学校行事などで礼法指導や存在感・達成感を抱かせる場の設定と関り ・朝のさわやかな挨拶とボランティア活動など奉仕、体験活動の推進で思いやりの心と人のために働く態度を養う。 ・新明倫の教えを毎週一度は唱和させる。	A B B A				
			・新体力テストの結果の活用と実践、立腰指導、体育の時間、「体力アップ運動」の奨励 ・危険予知トレーニング（KYT）実践で事故の未然防止に努める。 ・むし歯治療率60%以上 ・東っ子お弁当の日の拡充、朝食の重要性指導	B B B A				
			○ いじめ不登校の未然防止と早期解決 ○ 主体性を生かした教育活動 ○ 「新明倫の教え」の推進	○ 生徒指導の3機能を意識した授業づくりを目指している。また、悩みアンケートや教育相談が機能している。 △ 思いやりの心と人のために働く態度を養うことについては、個人差等もあり、更なる指導が必要である。 △ 更に多くの児童があいさつを進んでできるようになる必要がある。				
体 育	健康づくり 生命尊重と健康管理能力の向上	○ 基礎体力の向上 ○ 生命の尊重と健康教育の推進 ○ 心と体を豊かにする食育の推進	・児童の自己実現への支援～生徒指導の3機能発揮と「あのねカード」や相談活動を毎月実施 ・学級活動、全校、学年集会活動、学校行事などで礼法指導や存在感・達成感を抱かせる場の設定と関り ・朝のさわやかな挨拶とボランティア活動など奉仕、体験活動の推進で思いやりの心と人のために働く態度を養う。 ・新明倫の教えを毎週一度は唱和させる。	A B B A	B	体力づくりの推進 ・体育の時間での主運動の時間の確保 ・昼休みの外遊び推奨 ・KYTの研修等の実施 ・生活リズム週間の実施（学保委）	・体を動かす機会や時間を確保することは体力向上の上で重要である。 ・むし歯治療率の数値から現状を分析し、児童と保護者への意識向上を目指して欲しい。	
			・新体力テストの結果の活用と実践、立腰指導、体育の時間、「体力アップ運動」の奨励 ・危険予知トレーニング（KYT）実践で事故の未然防止に努める。 ・むし歯治療率60%以上 ・東っ子お弁当の日の拡充、朝食の重要性指導	B B B A				

【次年度の方角性についての校長所見】
新明倫の教えや明倫四徳、生徒指導の3機能を生かした授業づくりを基盤にした自己指導能力の育成、健康や体力について自分の課題を知り解決を図る生活習慣の育成など、今後も児童の総合的な能力を高めるために、全職員がそれぞれの役割を果たし、組織的に教育活動にあたるようにする。また、保護者及び地域の様々な人材や企業などの力を最大限に生かしたコミュニティスクールとして成長を続けていく学校であり続ける。